

## 第2章

### 添田町の景観特性と課題



「そえだ町のきれいな川」 添田小学校5年 赤熊 桃佳さん

## 第2章 添田町の景観特性と課題

### 1. 添田町の景観の構造

添田町の景観資源は、その成り立ちによって、下図のように「自然の景観」・「歴史・文化の景観」・「暮らし・まちの景観」の3つに分類されます。それらは、景観の基盤をなす「景観の骨格」、時間を積み重ねて形成された「景観の積層」、人々の暮らしや文化から滲みでる「景観の表情」として捉えることができます。

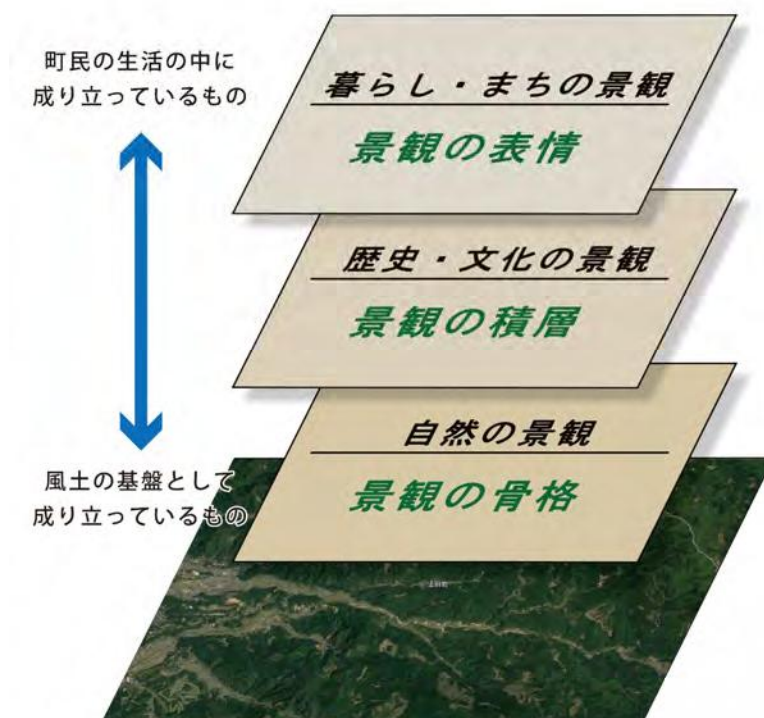


図 2-1 添田町の景観資源の分類

表 2-1 添田町の景観資源の分類

自然の景観	歴史・文化の景観	暮らし・まちの景観
町の良好な景観を創り出す基盤となっているもの	固有の歴史や文化、風土を伝えるもの	町の現在の暮らし方を反映するもの
<b>景観の骨格</b>	<b>景観の積層</b>	<b>景観の表情</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 英彦山などの山林・山並み</li> <li>● 彦山川などの河川</li> <li>● 四季折々の風景・気候</li> <li>● 地形</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 英彦山神宮などの神社仏閣</li> <li>● 神幸祭などの祭礼</li> <li>● 獅子楽・神楽などの伝統芸能</li> <li>● 先人より受け継がれる伝統</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 暮らしや生業が生み出す景観</li> <li>● 歴史的な街並み・商店街</li> <li>● 田園や田畑の風景</li> <li>● 道路・公園</li> </ul> <p>など</p>

## 2. エリア毎の景観資源の特性と問題点

添田町の景観の成り立ちや景観資源の特徴を把握し、添田町の景観特性と問題点を整理するにあたり、添田町の景観の骨格や体格の特徴がエリア毎にことなるため、5つのエリアに分類し整理しました。

- (1) 英彦山・深倉エリア
- (2) 添田まちエリア
- (3) 彦山川沿い田園エリア
- (4) 中元寺川沿い田園エリア
- (5) 今川沿い田園エリア

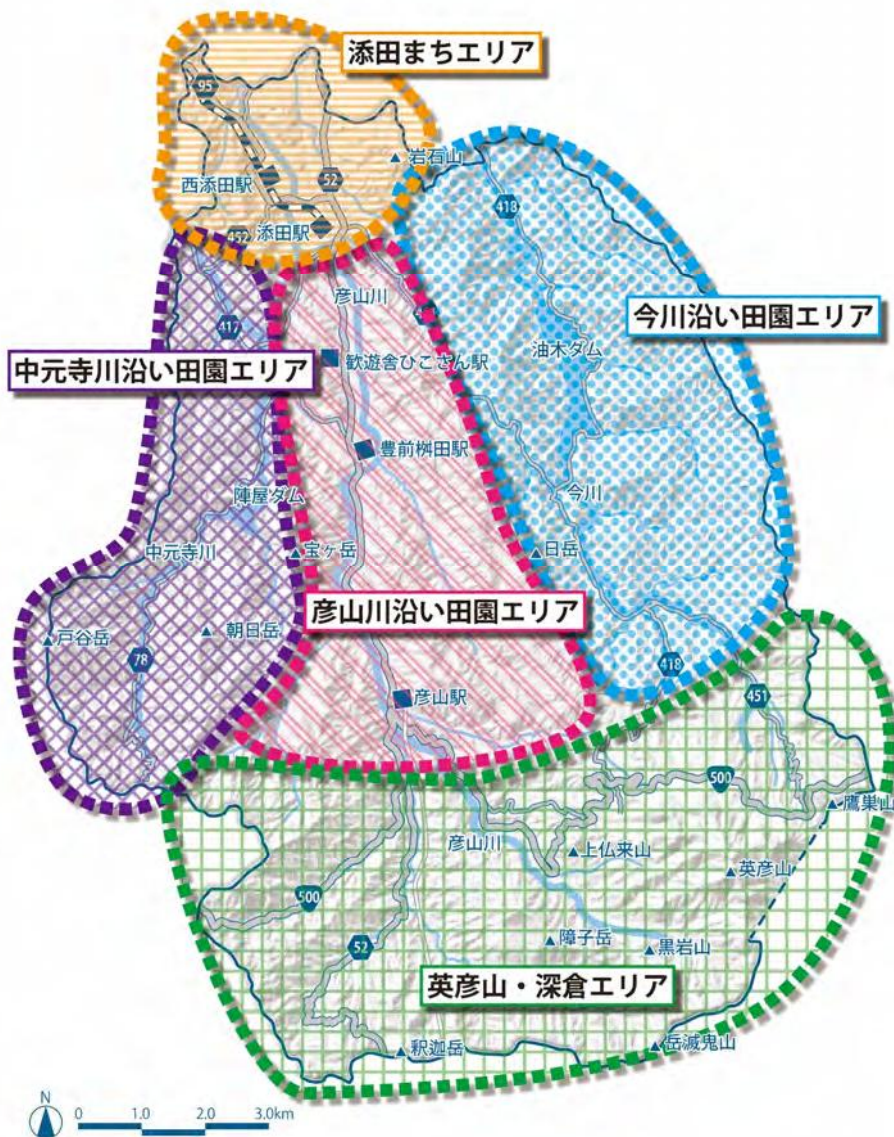


図 2-2 エリア範囲

## (1) 英彦山・深倉エリア

「(1)英彦山・深倉エリア」には、霊峰 英彦山を主峰とする山々が南部の東西に連なり、ブナやクマイザサなどの県内でも類のない自然林が広く存在しています。英彦山は、北部九州随一の高山であるため、県内随一の冷温帯植物の植生地となっており、エリアの大半は、耶馬日田英彦山国定公園の特別保護地区に指定され保護されています。

また、英彦山及び周辺の山々には登山道や九州自然歩道等が整備され、一年を通じて多くの登山・散策者が訪れています。河川の浸食等で形成された深倉狭や英彦山大権現付近には、夏の清流・紅葉狩りなど、季節ごとに違った風情を醸しだしており、訪れた人々の癒しの場となっています。

英彦山内には、英彦山神宮をはじめ数多くの神社が立地し、山伏の修行の場である社殿や窟が現在も残されています。重要文化財の英彦山神宮奉幣殿と英彦山神宮銅鳥居を繋ぐ参道を中心に、御潮井採りや御田祭、神幸祭などの祭礼や英彦山詣でが今日まで受け継がれており、英彦山の北側に位置する高住神社でも、神幸祭や修験道を色濃く残す護摩焚きが行われています。神宮の祭礼と修験道の儀式が混在していることにより、かつての山伏の活動拠点であった坊舎などの歴史的建造物も相まって、英彦山特有の霊験あたたかな風情を醸し出しています。

しかし、人口減少・高齢化が著しい本町の中でも当エリアは特に顕著であるため、かつて英彦山神宮への参詣者を迎えていた店舗の多くが廃業するなど、坊舎などの空き家化や取壊しも進行しており、取り壊された跡地や空き家の管理が行き届いておらず、風情を汚している箇所が多くなっています。

また、祭礼や「町指定民俗文化財 彦山踊り」などの伝統芸能を担う人材も減少しているため、活動自体の維持が危機的状況にあります。

### 【問題点】

- ◆登山道の管理が行き届いておらず、沿道にゴミ・雑草などが多くある状態です。また、樹木が大きくなっており、眺望を阻害しています。
- ◆坊舎等の歴史的な建造物の取壊しや空き家・空き地化が進行し適切な管理がされていません。また、参道沿いの樹木や一部の庭園については、管理が行き届かず、石垣に影響を与えているだけでなく、かえって景観を阻害しています。



花見ヶ岩から望む冬の参道

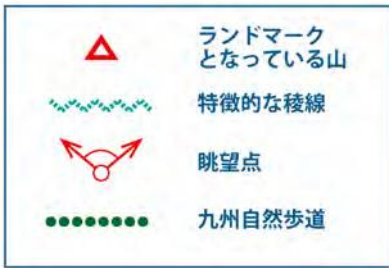


深倉狭



英彦山大権現の紅葉

# 景観特性図



※眺望点はアンケート等の調査結果を基に設定

図 2-3 景観特性図（英彦山・深倉エリア）  
【国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図に加筆】



拡大図



## (2) 添田まちエリア

町の北端に位置し、大字庄と大字添田で構成する「(2) 添田まちエリア」は、エリアの大部分が平野部で人口の約7割が集中しており、古くから経済・産業及び行政の中心地となっています。当エリアは、東にそびえる岩石山の山頂に築かれた「岩石城」の麓に城下町として整備されたことに端を発し、英彦山詣での宿場町としての機能も相まって発展しました。昭和期に入り、峰地地区や真木地区を中心に石炭採掘が本格的に開始されると、町の人口が27,978人(昭和30年(1955))とピークに達したものの、炭鉱完全閉鎖以降、人口は減少の一途を辿っています。

当エリアの観光施設としては、昭和6(1931)年に開園した添田公園があり、四季折々の植物が町民や観光客に癒しを与えています。特に桜の季節は筑豊随一の名所として多くの花見客が訪れています。岩石山も、低山の名山として多くの人々が登山・ハイキングに訪れる人気の山となっています。

また、当エリアでも神幸祭が開催されており、特に添田本町地区の神幸祭は、疫病退散を祈願する祇園祭と一連の祭礼として親しまれています。提灯で飾られた山笠が翌日にはバレンなどで飾り付けられ、住宅街や歴史的な建造物の町並みを練り歩きエリア独特の情緒が醸し出されています。しかし、近年、祭り参加者や担い手が減少しており、山笠巡行・神幸祭を廃止する地区が出始めました。

昔ながらの商店や町家等の多くが取り壊されたものの、添田本町地区には、重要文化財「中島家住宅」など歴史的建造物が今でも残っています。壮麗な匠の技術により往時の繁栄を窺い知ることができますが、歴史的な建造物の劣化が進行するとともに、徐々に空き家・空き地も増大しており、それらの管理が行き届かず、かえって景観を阻害する要因となっています。

また、近年、他市町村でも問題となっている大規模太陽光パネルの設置や大量の土砂堆積を伴う開発が当エリアで見受けられるようになり、大雨等の際の土砂流出を危惧するだけでなく、本町の風情・情景が侵され始めていることが危惧されます。

### 【問題点】

- ◆昔ながらの町屋建築や神社などの歴史的建造物が残っていますが、一般住宅街の中に点在しており、まちなみとしての魅力は失われています。
- ◆残土処理の造成・太陽光発電施設が町のいたるところから視認できることが、自然豊かな町の風景にそぐわないばかりか、災害等への不安を感じさせるものとなっています。
- ◆添田駅前等の商店街は空き店舗が増加し、かつての賑わいを知る方は寂寞を感じています。



国指定重要文化財  
中島家住宅



添田公園不動池

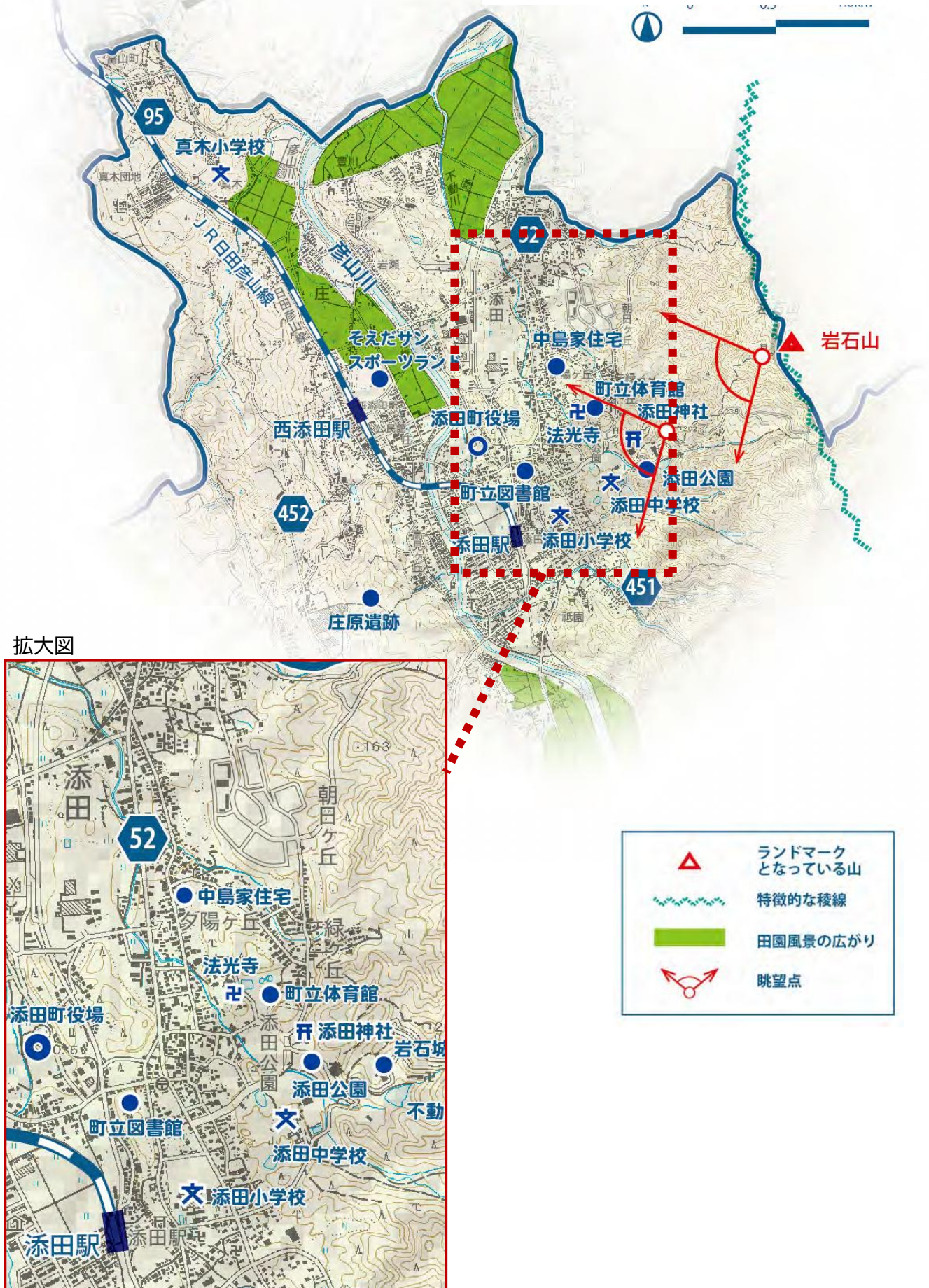


かつての炭鉱の様子

景観特性図

図 2-4 景観特性図（添田まちエリア）

【国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図に加筆】



### (3) 彦山川沿い田園エリア

添田町域の中央部に位置し、彦山川に沿って下流側から野田、梶田、そして落合の一部の3つの地区が南北に連なるエリアで、山々の稜線と山すそに集落が点在する田園風景が形成されており、訪れる人々に添田町らしさを感じさせる風景の一つとなっています。

当エリアは、添田町の玄関口である「(2) 添田まちエリア」と観光客を集める「(1) 英彦山・深倉エリア」を繋ぐエリアとして、道の駅「歓遊舎ひこさん」や「フォレストアドベンチャー・添田」などの観光開発が進められており、訪れる人々が町内を周遊することにより、本町での滞在時間等の向上が期待されています。

また、このエリア全ての地域でも神幸祭が継承されており、野田・落合地区では獅子楽も奉納されています。地域の厳かな鎮守の杜に鳴り響く太鼓や笛・鐘の音に合わせて勇壮に舞われる獅子楽は、訪れる人々に古き良きふるさとを感じさせる風景となっています。

しかし、大雨等の罹災が心配される近年にあって、当エリアは特に土砂崩れや河川護岸の崩落などの被害が多発しています。復旧にあたっては、比較的頑丈なブロック塀等が用いられることが多く、景観面において、安全な生活の担保との均衡を図ることが苦慮されています。

#### 【問題点】

- ◆道の駅歓遊舎ひこさん周辺からは彦山川、英彦山の山々と続く美しい景観が見られますが、ゆっくり眺めることができる視点場となる場所が乏しい状況にあります。
- ◆高齢化や担い手不足により、農林業の継続ができずに、耕作放棄地や適切な管理がなされていない山林が増加しており、田園風景が失われつつあります。
- ◆近年、大雨等による罹災が頻発している本町にあって、当エリアは特に被害が多発しています。景観面において、安全な生活の担保との均衡を図ることが苦慮されます。



道の駅歓遊舎ひこさん



彦山川の風景



太祖神社の獅子楽



景観特性図



図 2-5 景観特性図（彦山川沿い田園エリア）  
【国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図に加筆】

#### (4) 中元寺川沿い田園エリア

本町の西南端の町境を源流とし、遠賀川の支川である中元寺川に沿った大字中元寺が構成する「(4) 中元寺川沿い田園エリア」には、緩やかで浅い谷あいがあり、のどかな田園風景が県道 452 号沿いに連なっています。

中元寺川は、古くから大雨の際に幾度となく氾濫しており、水量調整と川崎町・田川市の生活・工業用水としての活用を目的に陣屋ダムが整備されました。山間に広がるダムが織りなす四季折々の風景と初夏に乱舞する蛍が作り出す景色は、圧巻の景色といえます。

当エリアの北東端に位置する金ノ原台地は、古くから畑作が盛んです。金ノ原ダイコン・人参などの野菜は、福岡・北九州都市圏を中心に人気を博しており、近年ではトルコギキョウやケイトウなど花き栽培も盛んに行われています。

中元寺の観光資源としては、平安時代に造られ地域の人々によって大切に守り祀られてきた県指定文化財 薬師如来坐像を安置する薬師堂や、県指定天然記念物 イチイガシがご神木となっている諏訪神社や、河童伝説が残る瀬成神社などがあります。なお、諏訪神社・瀬成神社の両神社でも神幸祭が行われています。

当エリアでも、高齢化等による人口減少が進行しており、一部の山間の集落では廃集落となってしまいました。

#### 【問題点】

- ◆のどかな田園風景が、高齢化により離農が進んでおり、適切な山林や田園風景の保全や社寺の管理に関する懸念があります。



ヤマメ釣り大会



県指定文化財  
薬師如来坐像



陣屋ダム

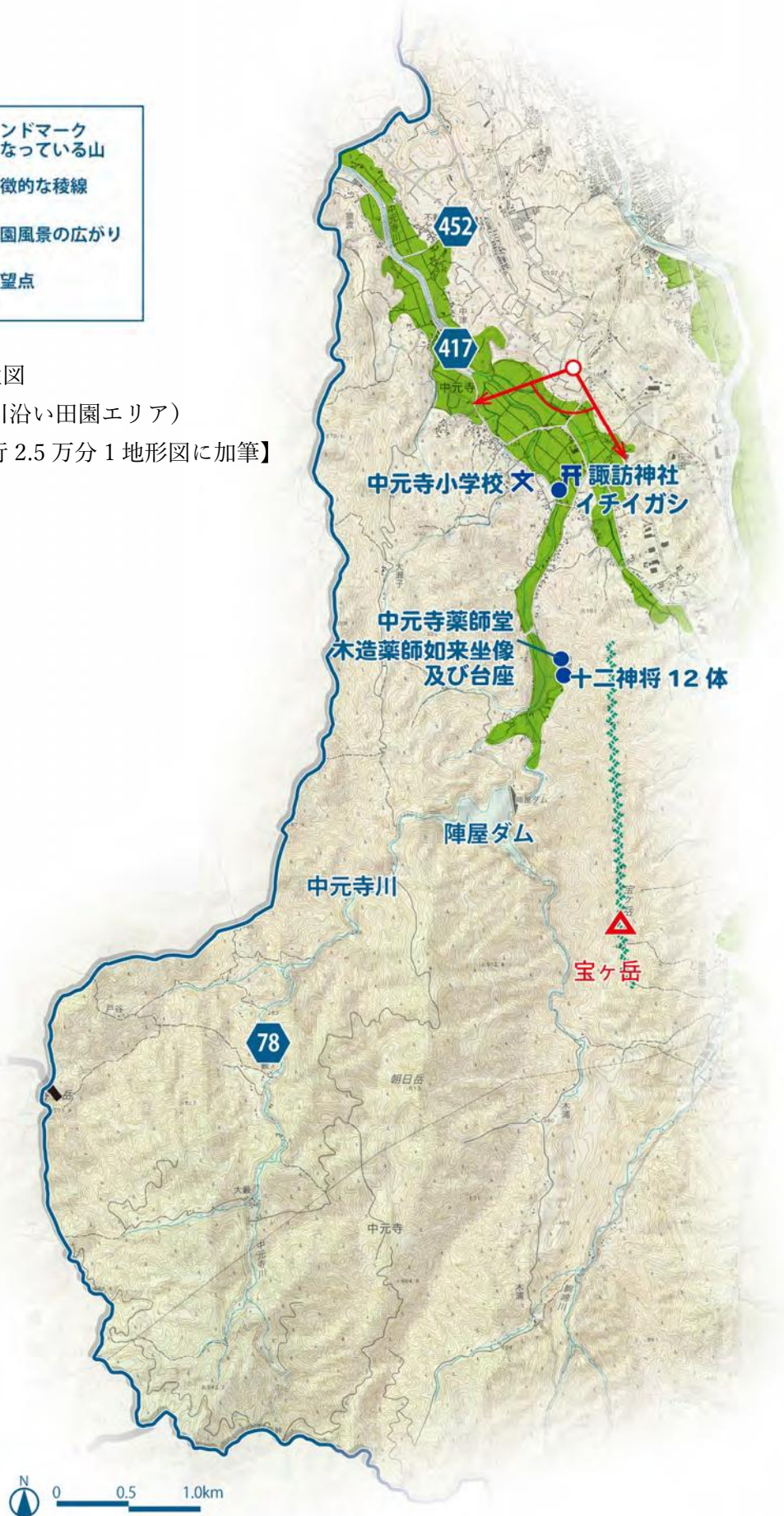
## 景観特性図



図 2-6 景観特性図

(中元寺川沿い田園エリア)

【国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図に加筆】



## (5) 今川沿い田園エリア

添田町域の東部に位置し、英彦山や鷹巣山の直近の裾野に位置するため、険しい稜線が形成する今川に沿った谷あいには断続的に集落が点在する大字津野で構成されるエリアです。

当エリアには、古くから営まれている水田のかんがい用と洪水予防、そして工業が発展した北九州・京築圏の工業用水などの確保を目的に県内有数の規模を誇る油木ダムがあります。狭あいの谷間に広がる水面と周辺の山林が織りなす四季折々の風景は、風光明媚な場所として癒しを与える場ともなっています。

当エリアの上流部にある上津野地域には、壮大な茅葺屋根が荘厳な雰囲気を出し出す国指定重要文化財 旧数山家住宅があり、上津野高木神社と相まって英彦山神宮とのつながりを感じさせる風格ある集落景観が形成されています。

上津野、下津野とともに神幸祭が継続されており、急峻な谷間に佇む田園風景を背景に神輿が巡行する姿は、趣のある景観を形成しています。

しかし、本エリアにおいても、過疎・高齢化の進行が著しく、山間の集落を中心にいわゆる限界集落となることが喫緊の課題となっており、それに伴う山林・田畑の適切な管理が行き届いていない地域も見受けられます。

### 【問題点】

- ◆過疎・高齢化により農林業の継続ができずに、耕作放棄地や適切な管理がなされていない山林が増加しており、美しい田園風景が失われつつあります。
- ◆人や車の往来の少ない油木ダム西側の町道などでは、ゴミの不法投棄が散見され、訪れた方などに不快感を与えることとなっています。
- ◆英彦山などの山に囲まれた地域であることから、シカ・イノシシ等による農作物への獣害が多数発生しています。



国指定重要文化財  
旧数山家住宅



徳乗寺周辺からの眺望



油木ダム

# 景観特性図



図 2-7 景観特性図（今川沿い田園エリア）  
 【国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図に加筆】

### 3. 添田町らしさを代表する景観

添田町内には、地域住民によって大切に育まれ、来訪者からも好まれている景観が各所にあります。これらの中から、景観資源調査や各エリアの景観特性などを踏まえて、「添田町らしさ」を代表する景観として24件を選定しました。

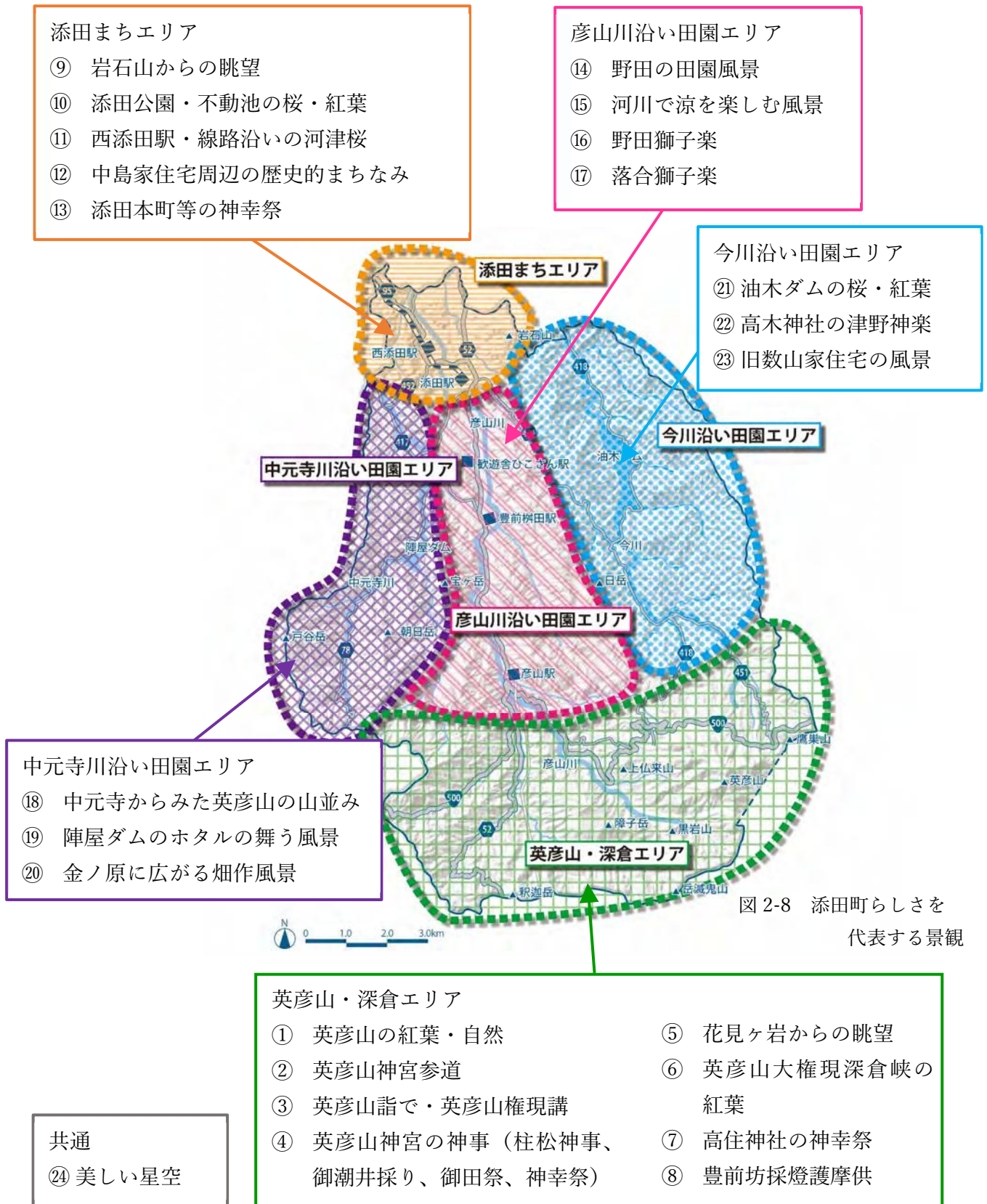


図 2-8 添田町らしさを代表する景観

## 4. 景観まちづくりへ向けての課題

添田町では、少子高齢化により様々な事業や地域活動を支える後継者が不足しています。そのような状況の中、景観基礎調査、各エリアの景観特性と問題点から、本町における景観まちづくりの課題を次に整理します。

### ■ 町民・事業者・行政の協働の取り組みに関する課題

- ・ 各地域やボランティア団体により美化活動などが行われていますが、活動内容などの情報共有が十分にできていません。
- ・ 多くの活動が高齢者によるものであるため、継続が不安視されています。
- ・ これまでにも協働による取り組みを試みっていますが、町からの支援が終わると活動も根付かずに終わってしまうなど、まちづくり団体を形成して町民主体による活動を持続することが困難な状況です。

### ■ 歴史・文化遺産の保全・活用に関する課題

- ・ 添田町には、英彦山信仰の影響による多数の歴史文化遺産がありますが、それらとは無関係の新しい素材やデザインを用いた建て替えや維持管理不足により、歴史の連続性や伝統・文化を感じさせる景観が失われつつあります。
- ・ 地域のお祭りや行事が少子高齢化のため形骸化しており、継続が困難になりつつあります。今後、地域の文化や風習が損なわれることが懸念されます。特に、若い世代への伝統文化の継承が不十分な状態です。
- ・ 歴史・文化遺産を保全・活用するためには、住民の理解と協力が不可欠ですが、歴史的風致に関する取り組みについての情報共有が進んでおらず、関心が低い状況です。

### ■ 豊かな自然景観や田園風景の保全・活用に関する課題

- ・ 担い手不足や高齢化等に伴い離農が進み、耕作放棄地が増加するなど、添田町らしいのどかな田園風景が失われつつあります。
- ・ 近年は災害が増加しており、その復旧に伴う大規模な整備などにより美しい河川や里山の雰囲気損なわれることが懸念されています。
- ・ 町面積の8割が森林で広範囲に及ぶため、十分な管理が行き届かず、せっかくの眺望景観を阻害している状況です。

## ■ 住環境の保全・改善に関する課題

- ・ 住環境に近い位置での残土処理の造成や大規模な太陽光パネルの設置が目立つなど、災害時の不安にも繋がっています。また、広範囲から視認できることから、緑豊かな町の景観を阻害しています。
- ・ 道路にゴミや雑草、木の枝などが多く、また剪定後の枝が放置されており、通行の妨げになっているだけでなく、町の活気を阻害しているという町民の声が多い状況です。

## ■ まちのにぎわい形成に関する課題

- ・ 空き家や空き店舗が増加しており、駅周辺のにぎわいが失われています。
- ・ 添田本町周辺の一部には、中島家住宅等の歴史的風致を呈しているものの、かつての活気あるまちなみのイメージが感じられる場所は少なくなっており、賑わいの回復を望む声が強まっています。